

蝶の昼

茂原朱美

初空や鷗飛び交ふ滑走路
玉砂利の音軽やかに皮ジャンパー
冬帽を脱ぐ一瞬の顔認証
断捨離のどこかが痛い犬ふぐり
三叉路に三角の家蝶の昼
種物屋話は日射し浴びながら
罫やみんな長生きする積り
ドローンの見せる幽谷夏に入る
薫風やいつか出て来る捜しもの

独り言多しキャベツを刻むにも
円相は一気呵成に蟬時雨
新橋や男の日傘華やかに
炎天やさらりと値引きしてくれて
揚花火照らす宇宙の深みかな
秋灯や時折うなる室外機
待つことを楽しむ齡竹の春
読み返す句集にひかり十三夜
冬の苑並んで食べる酒饅頭
天災も人災も抱き山眠る
木の橋に小さな擬宝珠しぐれをり